

切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月1日現在）

単位：千本、円／本

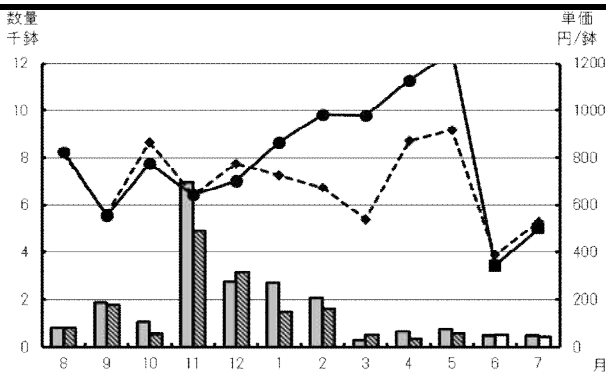
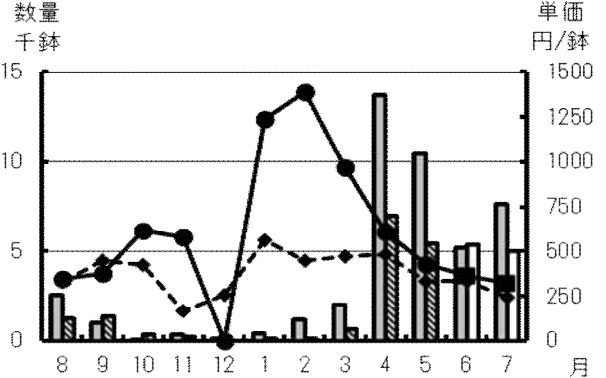
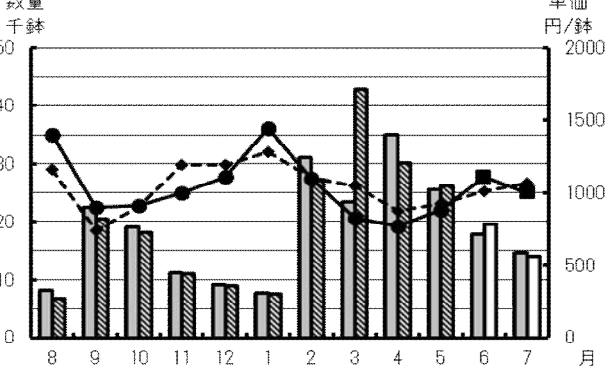
品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2020年	1, 7 4 9	4 5	数量 千本 単価 円/本
		2021年	1, 5 9 7	3 5	
		2022年	1, 2 5 3	4 4	
		2023年	1, 2 3 8	6 1	
		2024年	1, 2 5 3	4 4	
		5ヵ年平均	1, 4 1 8	4 5	
		2025年見通し	1, 2 5 0	4 5	
	概要	愛知、長野、三重から入荷。上旬は新盆需要に期待。中旬は入荷量も落ち着いて、下旬からは旧盆に向けて数量も増え、引き合いも少しづつ強くなる見込み。			
小 ぎ く	実績	2020年	1, 6 7 2	3 1	数量 千本 単価 円/本
		2021年	1, 4 6 7	2 4	
		2022年	1, 0 1 7	4 1	
		2023年	1, 3 0 9	3 8	
		2024年	1, 0 1 7	4 1	
		5ヵ年平均	1, 2 9 6	3 4	
		2025年見通し	1, 0 0 0	4 0	
	概要	愛知、長野、埼玉から入荷。上旬は新盆需要に期待。梅雨も明けて、高温期が長くなってくると生育抑制の影響等も見受けられると思われる。下旬からは旧盆需要の買いも始まるので動きも良くなるだろう。			
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	1, 0 0 5	4 5	数量 千本 単価 円/本
		2021年	9 7 6	4 0	
		2022年	9 7 1	3 4	
		2023年	1, 0 0 0	3 6	
		2024年	1, 1 3 3	5 0	
		5ヵ年平均	1, 0 1 7	4 1	
		2025年見通し	1, 1 5 0	4 5	
	概要	長野、輸入中心に入荷。前半に長野産のスタンダードの山があるが、それ以降は次第に落ち着く見込み。			
か す み そ う	実績	2020年	1 0 6	9 5	数量 千本 単価 円/本
		2021年	1 1 5	8 5	
		2022年	1 4 0	8 8	
		2023年	1 4 9	8 5	
		2024年	1 8 4	8 3	
		5ヵ年平均	1 3 9	8 7	
		2025年見通し	1 5 0	8 0	
	概要	福島、長野からの入荷となる。上旬は据え置き株のピークとなる。遅れ気味で推移していたため、中旬まで数量はありそうな見込みで下旬には少し落ち着いていく。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2020年	3 0 2	1 5 2	
		2021年	2 7 7	1 4 8	
		2022年	2 6 5	1 6 1	
		2023年	2 7 3	1 4 6	
		2024年	2 4 3	1 7 1	
	5 ヲ年平均		2 7 2	1 5 5	
	2025年見通し		2 4 0	1 6 0	
概要	オリエンタルユリは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷。新潟産は八重も増やしており、入荷は多め。LAは埼玉、新潟からの入荷となり、例年並みとなりそう。鉄砲ユリは兵庫、長野、愛媛からの入荷となる。				
洋らん	実績	2020年	2 3 5	1 0 0	
		2021年	2 1 4	1 0 6	
		2022年	1 9 5	1 5 3	
		2023年	1 7 2	1 4 8	
		2024年	1 9 7	1 5 3	
	5 ヲ年平均		2 0 3	1 3 2	
	2025年見通し		2 0 0	1 5 0	
概要	愛知、静岡、鹿児島産に加え、輸入品が入荷する。オンシジウムは4 L 中心に徐々に減少する。デンファレはソニア中心の入荷で、徐々に減少。シンピジウムはニュージーランド産の入荷が見込めるが、為替の影響で入荷減となる見込み。カトレアは横ばいの見通しであるが、出荷者により谷間が発生し、日々増減がありそう。コチョウランは白大輪系は微減となる見込み。				
ばら	実績	2020年	5 8 5	5 4	
		2021年	5 5 7	5 1	
		2022年	6 4 4	5 1	
		2023年	6 8 3	5 2	
		2024年	6 7 5	5 2	
	5 ヲ年平均		6 2 9	5 2	
	2025年見通し		6 8 0	5 2	
概要	愛知、岐阜、三重、長野から入荷。6 月の高温の影響で暑さのダメージが見受けられ、中旬以降株を休める品種も出てくる。全体的には前年並みの出荷予想。				
枝もの	実績	2020年	1, 4 9 0	5 8	
		2021年	1, 3 6 6	6 4	
		2022年	1, 4 8 2	7 1	
		2023年	1, 3 5 9	7 5	
		2024年	1, 4 2 8	7 2	
	5 ヲ年平均		1, 4 2 5	6 8	
	2025年見通し		1, 4 0 0	7 0	
概要	梅雨も明け、猛暑日が続く中、山取りの花材は減少していく。七夕に向け笹の入荷も始まり、新盆向けの法月、ハスなども入荷してくる。長野県中心に草花等が増え、枝物の品種・品目は少なめになる予定。				

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
アンズリウム	実績	2020年	25,748	1,020
		2021年	23,394	992
		2022年	21,480	1,095
		2023年	23,404	989
		2024年	25,845	999
	5ヵ年平均	23,974	1,017	
	2025年見通し	25,000	1,000	
	概要	入荷量は前年よりやや減少か。海外からの苗の仕入れ単価も年々上昇している為、今後生産量が増える事はない見込み。出荷は、4～6号が中心で、8号から尺までの相場が厳しいと思われる。グリーン系の色の生産が少なく売れ行きはいいと思われるが、赤が特に厳しい見込み。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(83.6%)、2位長崎(8.8%)、3位千葉(2.1%)となっている。		
ファレノプシス	実績	2020年	29,373	3,215
		2021年	31,387	3,439
		2022年	22,489	3,554
		2023年	26,588	3,534
		2024年	24,001	3,835
	5ヵ年平均	26,768	3,499	
	2025年見通し	23,500	3,830	
	概要	入荷量は前年より減少か。大輪、ミディー共に生産コストが上がり、単価が伸び悩んでいるので7月のお中元シーズンでも近年販売が苦戦。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースで1位愛知(61.7%)、2位静岡(9.8%)、3位宮崎(4.8%)となっている。		
バラ及びミニバラ	実績	2020年	13,446	121
		2021年	13,715	103
		2022年	5,142	72
		2023年	9,650	93
		2024年	7,921	104
	5ヵ年平均	9,975	103	
	2025年見通し	7,500	100	
	概要	入荷量は前年よりわずかに減少か。入荷の中心は3～4号の小鉢が中心になるが、酷暑の影響が大きく、生産量は減少傾向。気温の上昇に伴う花持ち、温度によるムレなどが懸念され、単価は厳しくなる見込み。 前年7月主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛媛(51.2%)、2位茨城(26.0%)、3位岐阜(13.3%)となっている。		

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2020年	1, 0 7 8	7 0 1	
		2021年	1, 1 1 3	4 1 2	
		2022年	7 1 1	4 1 4	
		2023年	7 1 1	5 6 1	
		2024年	4 8 3	5 2 9	
	5ヵ年平均		8 1 9	5 2 8	
	2025年見通し		4 0 0	5 0 0	
概要	入荷量は前年より減少か。生産コスト、資材の高騰に伴い、生産原価と販売単価が見合わない状況。また洋ランギフトが多品目に押され単価が伸び悩んでいる。ギフト商品として市場出荷される量は、かなり少ないとの見込み。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(69.5%)、2位高知(30.5%)となっている。				
スパテイフィラ	実績	2020年	6, 0 8 3	3 1 4	
		2021年	7, 1 0 4	3 1 4	
		2022年	2, 9 4 2	4 7 1	
		2023年	4, 8 2 6	3 5 7	
		2024年	7, 6 7 5	2 4 3	
	5ヵ年平均		5, 7 2 6	3 1 8	
	2025年見通し		5, 0 0 0	3 2 0	
概要	入荷量は平年よりかなり減少か。生産量減少が要因で平年より少ない見込み。4～6号の出荷の中心になる為、平均単価は入荷量の減少に伴い前年よりは高い水準で移行する見通し。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(42.3%)、2位三重(37.9%)、3位岐阜(17.6%)となっている。				
ドラセナ類	実績	2020年	20, 0 1 8	8 7 2	
		2021年	19, 9 3 4	1, 1 2 7	
		2022年	16, 4 8 5	1, 2 1 4	
		2023年	17, 2 7 3	9 7 7	
		2024年	14, 6 5 9	1, 0 7 2	
	5ヵ年平均		17, 6 7 4	1, 0 4 7	
	2025年見通し		14, 0 0 0	1, 0 0 0	
概要	入荷量は前年からやや少なめの予想。近年は、種苗会社からコンシンネの苗の導入があり、4号～6号のサイズでの出荷が増えてくる可能性がある。輸入原木に関しては、仕入れ単価が上昇することで原木の仕入れが減っている為、原木出荷は減少する見込み。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(55.5%)、2位鹿児島(18.8%)、3位三重(7.7%)となっている。				